小立野善隣館こども園／石川県金沢市

土や水、樹木や花の香、陽の光の中で「生きる喜び」を実感できる遊び場

吉田 敬子 園長先生

当園は2006年より「子どもの運動能力を高める保育実践」の公開保育を行ったことがきっかけで、子どもの運動遊びと環境について考えるようになったのですが、最初は園内での運動遊びが中心で、「今日は○○の運動遊びをしましょう」と一斉に同じ遊びをさせて、保育士主導の保育になってしまうことが多かったんです。そこで2011年からは子どもの主体性を尊重し「好きな遊びが好きなだけ」できて、遊びを通して運動能力が身につくように、遊びに必要な環境についてアネビーさんと一緒に考え、自然の中で四季の変化に気づいたり、見たりふれたりして遊べるように、さまざまな種類の樹木も植えてこの園庭づくりを始めたんですよ。

最初は園庭の真ん中の築山。そしてその周りに土や水で十分に遊べる池を造り、土を盛ったんです。すると「泥んこ遊び」の経験のない若い保育士が子どもと一緒にどろどろになって遊ぶ姿や、満面の笑顔で歓声をあげ、心が満足していく子ども達を見ていると「遊び」について多岐にわたる環境が必要なのだと考えさせられました。

また園庭では1歳から6歳までの異年齢の子ども達が好きな場所で同時に遊んでいて、大型遊具で遊ぶ大きい子を見て、小さい子が同じ事をしたくて挑戦するんですが、できた時はうれしくて何回でも、毎日でもやっているんですよ。

子ども達はいろんな遊具やさまざまな場所で、時にはハラハラ、ドキドキしながら遊び、敏捷性、機敏性、判断力、人とのかかわり方を身につけていくんですね。子どもが自分から「やってみたい」と思ったことは、どの子もすごい自分の力を出しきって、果敢に挑戦していて、その姿を見ると本当に感動させられます。

安全については危ないことを「させない」のではなく、遊びを通して危険を察知したり、回避したりして身を守る術を学び、経験として身につけながら子どもは育つのだと思っています。

そして今日の園庭でも、子ども達の「生きる喜び」に満ちたドラマがいっぱい生まれているんですよ！

挑戦と達成の源 2つの築山と3つのタワー

園庭を見渡す大きな築山と降雪などの天候にも左右されない人工芝の築山。子ども達は登ったり降りたりを自由自在にしながら、またてっぺんから次に遊ぶ場所を模索しながら、その登り降りさえも楽しんでいます。

園庭を象徴する3つのタワーは互いに行き来することも挑戦であり、到着した先にはトランポリンや司令室、そして秘密の隠れ部屋があって、その先には空中ケーブルが！子ども達は次から次へと、そして毎日毎日難関と格闘し、誇らしい顔で達成していきます。

園庭の中央で小立野を象徴する築山は、鬼瓦の門をもち、子ども達の守り神のような存在です。

ここからは自分たちの遊びの世界が一望できる。

たくさんの仕掛けが待っているタワーは、子ども目線で見るとさらに心踊る。

登ったり、移動する手段はさまざま。挑戦は無限大！

実りの喜び、自然とのかかわり 収穫と食育

ここにはなんとピザ釜があります！調理室で用意した生地に、子ども達が収穫したピーマンやじゃがいもをのせて焼くと…。
ピーマンが甘いと大好評！またみんなで一緒に食べることがどんなことよりも、嬉しくて楽しいようです。

トンボがとまっているのは高い木の枝。めいっぱい背伸びしたら…いっぱい捕まえたね！

大きい子は自分たちなりの足場を作って、ブドウ棚から美味しそうな実を収穫します。

遊びも挑戦も十人十色

設置内容
小立野タワー／スカイデッキ／空中ケーブル／築山(芝)／ピザ釜／カルデラ砂場／ガチャポンプ＆水流れ＆じゃぶじゃぶ池

3つのタワー

タワーへ登るのも、降りるのも、それぞれのタワーへの行き来も、すべてが新しい身のこなしを経験できるように造られています。そして各タワーのてっぺんには、ご褒美の遊びが待っています。

てっぺん制覇のご褒美のひとつは「司令室」。座った子どもの顔はとても誇らしげ。

空中ケーブル

タワーから伸びる空中ケーブルは勇者の証。そして次の勇者のためにシートを手渡しするのも勇者の仕事。

Q 何を見てるの？ 何を作ったの？

ピザ釜

シーソー

小さい子達のために年長さんが奮闘中。

大きな石が使われていて、自然の渓流を想像させる。見学者に危なくないのかと聞かれることもしばしば。でも子ども達は事も無げに登ったり降りたりしている。

じゃぶじゃぶ池

築山

この人工芝の築山は小さい子のお気に入り。
思い思いの楽しみ方がある。

全身を使って屋根登り！ 2歳児が挑戦することも。

築山

小屋

砂場

サラサラを楽しんだり、水を使って固めてみたり、全身を使って掘ってみたり、収穫したブドウで創作ケーキまで！

小立野善隣館こども園の先生方

園庭は進化していく

大型の遊具からの降り方を模索している子どもを、2時間以上も見守る先生も！

もちろん予算の関係もありますが(笑)、一度に完成形にしても面白くない。ちょっとずつ増やしていく、難しくしていく、組み換えをしていく。園庭が進化していく方がいろんなことができるようになる子ども達も、それを発見できる私達も楽しいのです！